



# 学薬のひろば



Vol. 012

7月、昨年とはうってかわって暑い日が続いています。子供たちは喜んでプールに通っていますが、私はちょうどプール検査・空気検査が重なっていることもあって少々暑さにへばっています。先生方も夏ばてには十分注意をしていただきたく思います。

さて、今月号では6月19日、20日に札幌と熱海で開催された日本学校薬剤師会東海ブロック会議と第55回十三大都市学校保健協議会の報告をしていただくとともに、5月号で大橋会長が述べられた“学校薬剤師の活動について、実際の活動の証拠となる報告が充分でない”とのご指摘から参考となる「執務報告書」を最後に載せさせていただきます。“従来の対物管理という環境衛生活動の対価は、執務回数で評価されるものか、指導助言の内容はどの様に評価されるものか・・・”とのご意見もあろうかと思いますがやったことについての“報告書”の提出は当然あるべきかと考えます。是非ご利用いただきたく思います。

## 平成16年度日本学校薬剤師会東海ブロック会議 報告

6月19日に熱海市にて、日学薬東海ブロック会議が開かれました。日学薬理事、静岡県、鈴木先生の司会のもとに、まずは、日学薬常務理事、田中先生から「報告事項」の説明がありました。

日学薬役員の会務分担が報告されたものの、「日学薬に厳しいことも言いますが」との、前置きどおり、「この分担では、杉下会長と副会長の意見で、すべて通ってしまうのでは」という危惧を話され緊張感が（見習中の山口先生と私に）はしり、昨年にもましての白熱した意見交換の、ブロック会の始まりとなりました。学薬関係の大会・講習会日程の説明、ラジオ短波学薬アワーの番組予定の説明のあと、いよいよ「協議（確認）事項」です。協議1で、各県の事業報告、計画が順番に紹介されました。

愛知県は大橋学薬会長から、県立学校保健主事研修会へ講師として木全先生を派遣し、学校薬剤師活動への協力を再確認してもらったこと、12月5日に名古屋で開催の東海薬剤師学術大会ポスターセッション等、学薬としての発表の呼びかけ。県立高校の監査で、薬剤師の執務実態が問題になったことから、このたび作製した「学校薬剤師執務報告書」（活動をしていることを目で見える形で示す。薬苑8月号に掲載）の紹介、などが話されました。

協議2、の「学校環境衛生の基準」改訂に伴ういろいろ。講習会講師派遣は青本解説の執筆者より出そうと考えているとのこと。そして議論白熱したのは、どの解説書（青本）を購入するかの部分で、薬事日報社と契約書が結ばれていない段階の今、自分がみただけでも同解説書に2ページ誤りがある（田中先生）、基準と解説とでホルムアルデヒドの測定法の表現がちがう（他出席者）、というより執筆者の測定のとらえがちがうのでは、測定法も以前の表現にもどった。三重県は同社の青本を買ってしまったよ（三重県吉田副会長）、愛知は一冊も買っておりません、7月のバインダー方式の発行をまっています（大橋先生）、日学薬としてはバインダーの方をす

すめている(田中先生)、バインダー方式のはだれも内容をみてないが正誤は大丈夫か(他出席者)、薬事日報社の発行の青本は、少なくとも正誤表をつけさせます(田中先生)。支部長宛なら送料無料、一冊であっても、とのこと。皆様ご利用を(大橋先生)。この議題の報告の要望など重要な部分は字を大きく書いて日学薬に出しますので(ご安心を)(司会、鈴木)。

続き、協議3、日学薬の事務について。日学薬の運営にかかる費用の説明で、日薬と日学薬の独立性ということもからみ、これも白熱協議。自分としては薬剤師会と学薬は別のものと考えている(田中先生、東京都学薬会長兼務)、いや困る、社団法人化も難しい現状、静岡もだが10ほどの県は学薬は県薬のなかに入っている実情を考えて、日薬がありその中に学薬があるという形にしてほしい(静岡県山梨副会長)。白熱、白熱、いやはや、で。日本中の県代表の意見、ブロックの意見があがってくる、それを一本化するお立場の、愛知県出、日学薬総務担当副会長の築城先生のご苦勞のほどがしのべられます。会議冒頭から常務理事からの苦言もありました。

最後に木全IT委員長から検査器具の説明、ホルアルチェッカーの紹介があり新情報が入手でき、ちょうどの時間に閉会。盛りだくさんの内容の会議でありました。

愛知県薬剤師会 学薬部会委員 亀谷みどり

## 第55回十三大都市学校保健協議会 報告

開催日 平成16年6月20日(日)

会場 札幌コンベンションセンター

近年、子どもたちを取り巻く環境が大きく変化している。特に大都市では生活様式の変化、自然環境の変化、少子・高齢化などが子どもの心身の健全な発育・発達にさまざまな影響を与えており、いじめ・不登校、校内暴力、喫煙、薬物乱用、生活リズムの乱れ、ストレスの増大、性にかかわる問題などが大きな課題となっている。

生涯にわたって心身の健康について関心を高めるとともに、自らの健康についての課題を見つけ、自主的に判断し、よりよく課題を解決していこうとする「生きる力」を支援していくことが、今、学校保健にかかわるすべての者に課せられた重要な責務である。このような考えのもと本年度は「心豊かにたくましく生きぬく子どもを育む、学校保健の推進」をテーマに、健康教育、保健管理、心の健康、地域保健のさまざまな問題について協議がなされた。

地域保健の第4分科会では家庭・地域・学校の連携による保健活動の充実とそのあり方について協議がなされた。その中で福岡市立梅林中学校の小代先生らが「ライフスキルを生かした健康教育の充実」を提言された。「タバコ・酒・薬物の誘惑から身を守る」ことについても検討がなされており、知らない人から勧められた薬物については断ることができるが、知人から勧められた場合はきっぱりと断ることができないという事例が報告されていた。こういった問題に対して学校薬剤師は薬の専門家として立場から助言することにより、薬物に対する正しい知識を習得させ、薬物から守ると共に、「生きる力」の育成にも貢献できるのではないかと考えられる。

これからの学校薬剤師はこういった問題に積極的に取り組んでいくことにより、ますます学校での活躍の機会が増えると思われる。

寺島健二



